

きのこ

1 栽培施設の浄化について

生産量を調整し施設稼働のない時期に、栽培施設の環境浄化を徹底しましょう。基本的な浄化手順は、施設内を完全に空にし、①吸引掃除→②拭き掃除（水洗い）→③乾燥に行います。必要に応じて除菌剤やオゾンガスを使用します。

（1）吸引掃除

ほうきや圧縮空気を使うと、ホコリなどの微細な汚染源が巻き上げられるため、栽培室の床に落ちている培地屑などは、掃除機で吸引するようにします。また、栽培室の栽培棚の棧部分についても収穫屑などがある場合も同様に掃除しましょう。

（2）拭き掃除（水洗い）

有機物が残っていると殺菌力が低下するので、拭き掃除は、吸引掃除の後に行います。除菌・乾燥させた清潔なモップやタオルなどを使用し、0.01%（特に汚れの著しい箇所は、0.1%）の次亜塩素酸ナトリウム液^{*}で同じ方向に拭き取ります。また、モップやタオルはこまめにすすぎ、すすぎ液が汚れた場合は早めに取り替えましょう。

また、オゾンガスを使用する場合は、使用方法を誤ると十分な効果が得られないばかりか、人体への危険も伴いますので、必ず発生器のマニュアルに沿って使用しましょう。

※次亜塩素酸ナトリウム液は金属を腐食させる作用があるため、金属製の素材には使用しないようにしましょう。老朽化し腐食した棚を拭き掃除する場合は、金属片の落下など異物混入の原因となるため、水拭きで行います。

（3）施設の乾燥

次亜塩素酸ナトリウム液やオゾンガスは残効性がなく、2日経過後には再び細菌などが増殖してしまいます。そのため、拭き掃除の後は栽培室を乾燥させて害菌等の増殖を抑えましょう。

（4）機械・資材等の掃除

菌かき機や掻き出し機は、付着している培地カスなどが汚染源となりますので、念入りに掃除を行います。栽培ビンは、培地残さが残っていないことを確認してから保管します。残さが残ってしまうと、害菌ばかりでなくダニやキノコバエの発生源となる場合があります。キャップにも培地カス等が付着を確認するとともに、キャップの劣化や内部のウレタンが収縮した場合は順次更新します。エノキタケ栽培で使用する巻紙について、ロウ紙などで水分を含んだものは、天日などで十分乾燥させておきます。乾燥機があれば70℃程度の高温で除菌も兼ねることができます。機械や資材は洗浄後に、よく乾かしてから保管することが大切です。

（5）栽培室の浮遊菌調査

環境浄化対策の効果を確認する方法として、栽培室の浮遊菌の密度を調査する方法（落下菌調査）があります。無菌培地が必要になりますので指導機関にご相談ください。